

<p>平成 29 年 12 月 26 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>1 月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

農薬散布のあとは、防除器具の洗浄を忘れずに！
～薬液タンク・ホース内の農薬が思わぬ残留をまねきます～

< 目 次 >

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病虫害】</p>	
<p>イチゴ：ハダニ類</p>	<p>..... 1</p>
<p>【その他の病虫害】</p>	
<p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ</p>	<p>..... 2</p>
<p>【防除所レポート】</p>	
<p>平成 30 年版果樹病虫害参考防除例について</p>	<p>..... 3</p>
<h3>II. 今月の気象予報</h3>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel : 0299-45-8200 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在，寄生葉率（本年値 17.8%，過去9年平均値 8.7%）は平年よりやや高く，発生地点率（本年値 40%，過去9年平均値 52%）は平年並である。
- ② 12月中旬現在，寄生葉率の前月（本年値 3.3%，過去9年平均値 8.2%）からの増加幅は平年より大きい。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，気門封鎖剤以外については，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお，薬剤散布は，古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	12月中旬現在，平年並～やや少ない発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや少ない ～少ない	12月中旬現在，平年よりやや少ない～少ない発生である。
	うどんこ病	発生量：少ない	12月中旬現在，平年より少ない発生である。
促成トマト	灰色かび病	発生量：やや多い	12月中旬現在，8月定植の圃場で発生を認め，平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	べと病	発生量：平年並	12月中旬現在，平年並の発生である。

平成 30 年版果樹病虫害参考防除例について

病虫害防除の際には、効果的な防除時期と薬剤を選定し、体系的な防除対策を講ずる必要があります。その際には、主要な病虫害の発生生態や例年の発生状況をふまえた上で、薬剤耐性・抵抗性の発達を回避すること等も考慮しなければなりません。特に果樹は栽培期間が長く、防除体系が複雑です。そのため、茨城県果樹病虫害参考防除例編成会議では、県監修により 6 作物 7 種の果樹病虫害参考防除例（以下、防除例）を作成し、農薬の適正使用および効果的な防除の推進を図っています。

平成 30 年版の各防除例について、平成 29 年版からの主な変更点を以下にまとめました。利用にあたっては、これら変更点に十分に注意しましょう。また、過度の農薬散布を防ぎ、農薬による危被害のリスクを下げるためにも、環境にやさしい防除技術を導入した上で、発生予察情報や自分の圃場における病虫害の発生状況を十分確認し、必要に応じた薬剤防除を行うようにしましょう。

なお、平成 30 年版は、平成 29 年 10 月 1 日現在の農薬登録内容に基づいて作成しています。登録内容は変更になる可能性がありますので、農薬使用時は必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等を確認して適正に使用して下さい。

< 果樹病虫害参考防除例の主な変更点（薬剤の追加・削除及び登録変更があった箇所） >

平成29年版

品目	時期、記載場所	薬剤名	変更内容 [変更前の登録内容]	変更理由
ナシ*	新梢伸長開始期(5月上旬) 本欄	ユニックス顆粒水和剤47	追加	①
露地 巨峰	開花直前(5月下旬) 本欄	スプラサイド水和剤	対象病虫害の追加	②
	開花直前(5月下旬) 注意事項欄	オルトラン水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤	削除	③
	開花直前(5月下旬) 本欄	スイッチ顆粒水和剤	フルジオキシニル 【2回以内】	④
	袋かけ前(7月下旬) 注意事項欄	テルスターフロアブル	薬剤の入れ替え	⑤
雨よけ 巨峰	開花直前(4月上旬) 注意事項欄	オルトラン水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤	削除	⑥
	開花直前(5月上～中旬) 本欄	スプラサイド水和剤	対象病虫害の追加	⑦
	開花直前(5月上～中旬) 本欄	スイッチ顆粒水和剤	フルジオキシニル 【2回以内】	⑧
	袋かけ前(7月上旬) 注意事項欄	テルスターフロアブル	薬剤の入れ替え	⑨
ウメ	落葉後 注意事項欄	ガットキラー乳剤	追加	⑩
リンゴ	7月下旬 注意事項欄	クラブフロアブル ダントツ水溶剤	記載時期の変更	⑪

平成30年版

変更後 [変更後の登録内容]
ハチハチフロアブル ユニックス顆粒水和剤47
カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ
—
フルジオキシニル 【3回以内】
ディアナWDG
—
カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ
フルジオキシニル 【3回以内】
ディアナWDG
ガットキラー乳剤 ラビキラー乳剤
8月上～中旬注意事項欄 に記載

*：露地赤ナシ無袋栽培

○変更理由は以下のとおりです。

【露地赤ナシ無袋栽培】

- ① 現地でニセナシサビダニが問題となっており、アブラムシ類についても防除の必要があるため、それらを対象とした薬剤を追加しました。

【露地巨峰】

- ②③ 5月下旬注意事項欄の削除については、アザミウマを対象として本欄に記載されている剤に加え、スプラサイド水和剤もチャノキイロアザミウマに適用があることから、本欄の防除で十分に対応できていると考えられるためです。
- ④ 有効成分フルジオキシニルのブドウにおける総使用回数に変更になったため、修正しました。
- ⑤ 園芸研究所内での圃場管理では、ディアナWDGの方が効果が安定していたためです。また、合成ピレスロイド系剤であるテルスターフロアブルによるリサージェンスを防ぐためです。

【雨よけ巨峰】

- ⑥⑦ 4月上旬注意事項欄の削除については、アザミウマを対象として本欄に記載されている剤に加え、スプラサイド水和剤もチャノキイロアザミウマに適用があることから、本欄の防除で十分に対応できていると考えられるためです。
- ⑧ 有効成分フルジオキシニルのブドウにおける総使用回数に変更になったため、修正しました。
- ⑨ 園芸研究所内での圃場管理では、ディアナWDGの方が効果が安定していたためです。また、合成ピレスロイド系剤であるテルスターフロアブルによるリサージェンスを防ぐためです。

【ウメ】

- ⑩ ガットキラー乳剤の入手が難しいケースがあったため、同等の効果が期待できるラビキラー乳剤を併記しました。

【リンゴ】

- ⑪ 7月下旬の本欄にはカメムシ類に適用がある剤が記載されておりますが、8月上～中旬には剤がなく、この時期に現地で防除が必要となる可能性が高いためです。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 12月23日から1月22日)

気象庁 (12月21日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	40	30	30
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 12月23日(土曜日) から 12月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 2 週目の予報 > 12月30日(土曜日) から 1月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 1月6日(土曜日) から 1月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRAC コード, IRAC コード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病虫害発生予報 5月号(平成 29年 4月 27日発表)の防除所
レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。